

## 1. 2017 年度の日野市における環境への取組のトピックス

---

2017 年度に実施された環境問題に対する取り組みの中から、つぎの 4 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

### (1) 日野市立カワセミハウスが開館しました。

2017 年 4 月 1 日これまでの環境情報センターと吹上地区センターの機能に加え、市内外への情報発信や、誰もが気軽に心地よく利用できるスペースを提供することにより、地域を構成する多様な主体間の交流をはかり、ひいては重層的かつ複合的につながることによって、新たな地域連携の創造や各主体の活力強化を目指しスタートしました。

#### ◇日野市立カワセミハウス運営の基盤

##### ①カワセミハウス協議会

日野市立カワセミハウス（以下「ハウス」という。）の運営の基盤となる市民組織として自治会、子供会を中心とした地域団体、環境団体、各種サークル、大学、ボランティアグループ等々多彩な 43 の団体と 1 人の個人で組織され、協議会としての年間事業推進など、事務局と一体となって誰もが居心地のよいハウスの運営に努めています。

#### ◇2017 年度の利用状況

##### ①ハウス出入口に設置したカウンター数値 104,651 カウント

※ センサー前を 2 回通過すると 1 カウントするよう設定

##### ②集会室利用者数 10,615 人

※ 旧環境情報センターの 2016 年度来館者数 2,656 人

※ 吹上地区センターの 2016 年度利用者数 4,220 人

#### ◇2017 年度の主な成果

##### ①黒川かわせみサロンの開催

高齢者を対象に、9 月から毎月 1 回（原則第 1 火曜日）有志の地域のご方々と市内の実践女子大学学生ボランティアとが協働して開催し、毎回多様な催し物とお茶やお菓子を提供しながら多くの方々に賑わっています。

##### ②第三の居場所の提供（フリースペースの活用）

ハウス周辺の恵まれた環境を背景に乳幼児を連れた親子から高齢者まで、毎日多くのお客様が来館されています。来館される目的は多様で、遊び、学習、休憩、食事、おしゃべり、編み物、調理、ちょっとした打合せ等々居心地の良い自由な空間として活用されています。

##### ③実践女子大学との多様な連携

先述した黒川かわせみサロンへのボランティア参加を始め、多摩地域の大学間によるまちづくりコンペティションにおいて、ハウスを拠点として自分たちのスキルを生かした「まちづくり工房」の提案、地域の絆を強めるイベント「オクトーバーフェスト」を自ら提案し、協議会の有志と協働して開催し地域のつながりを強化するなどの活躍をされています。

## 1. 2017年度の日野市における環境への取組のトピックス

### ④アートディレクション事業（アーティストと子供たちとのコラボ）

日野市出身で気鋭の版画家蟹江杏さんと志ある9人の中学生との協働により、創作絵本「ぼくのまちには もりがある」を創刊しました。この絵本は、日野市の宝である身近な自然をテーマに蟹江杏さんと子どもたちが描いた絵と想像される音から構成されています。

### ⑤環境分科会の誕生

協議会会員の中から自発的に分科会の立ち上げが提案され、環境基本計画の遂行と環境関連イベント等の事業を展開し、日野市の環境に関心を持ち行動していただける方を一人でも増やせるよう今後活動していきます。

この他にも、本白書ではご紹介しきれない人的科学反応が起きています。本白書をご覧になっている皆様も是非カワセミハウスをご利用いただければ幸いです。

## (2) 「ふだん着でCO<sub>2</sub>をへらそう」事業が10周年を迎えました。

地球規模での環境問題、温暖化問題への対応が、もう待たなしのところに来ています。

これら環境問題解決への取り組みは、何よりも多くの市民の関わりにより、行政を含めたまちぐるみで行なうことが最大の必要条件になります。

「ふだん着でCO<sub>2</sub>をへらそう」事業は、地球温暖化対策として、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出削減を全市民的な取り組みとするため、市民一人ひとりが、日常の生活の中で無理をせず環境に負荷を与えない行動を行うことを目的に、2008年度から市民・事業者・市との協働により市をあげて取り組んで来ました。

この「ふだん着」という事業名は、肩肘をはることなく、決して無理をせず、一人ひとりが毎日のくらしの中で、地道にこつこつと途絶えることなく継続していくという「普段」と「不断」の意味が込められております。

本事業は、当初は5年間の期限事業としてスタートしましたが、地球温暖化問題の重要性と本事業が定着しつつあることから、2回の事業延長を経て、今年で10年目の節目を迎えました。

当初から事業の柱として行っている、自らの省エネ行動を宣言していただく宣言世帯数は、皆様のご協力により、当初の目標世帯を大きく上回り、市民のCO<sub>2</sub>削減意識の醸成と省エネの行動継続に大きな成果を得られているところです。

しかしながら、2011年3月の東日本大震災以降、一人ひとりの省エネ意識は以前より高まってはいるものの、家庭から出る二酸化炭素排出量は思うような減少とはなっていない状況です。

私たちが先人から引き継いだ美しい地球、美しい「ふるさと日野」を次の世代へ手渡すためには、今後更に、私たち一人ひとりが自らの生活スタイルを見直し、行動することが求められています。

青い地球を次の世代へ引き継ぐため、一人ひとりが、持続可能な省エネ行動を継続することができるよう、各種事業を展開してまいりますので、引き続き皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 1. 2017年度の日野市における環境への取組のトピックス

### (3) 「ひの生きものプラン（日野市生物多様性地域戦略）」を策定しました。

私たちが暮らす日野市は、市の北側を多摩川、市内の中央部を浅川が流れ、低地には用水路が流れるほか、湧水地点も多数点在するなど「水の郷」と呼ぶにふさわしい環境にあります。また、多摩丘陵や日野台地の崖線などには自然度の高い緑が存在するなど、豊かな生態系が維持されており、

かつては、人はこうした身近な自然環境の中で生物多様性の恵みを得て、そこに暮らす生きものと共生しながら暮らしてきました。このような中、幸いにも日野市においては、地元を愛する市民の地道な保全活動と、日野市による多年にわたる環境施策の積み重ねによって、都市部で失われつつある自然環境や生物多様性が守られてきました。

しかし、こうした取り組みにもかかわらず、都市化による緑被率や耕地面積・生産緑地面積の減少や、水路の廃滅は進行しており、日野市においても残された自然が少しずつ消えている現状があります。

これらの背景をふまえて、これまで市が誇りとしてきた「みどりと清流のまち ひの」を次世代へ良好な状態で引き継ぐため、2015年度から策定委員会を設け市民・事業者の方と共に3か年をかけて検討を重ね、この度、「ひの生きものプラン（日野市生物多様性地域戦略）」が完成いたしました。

この「ひの生きものプラン」は、これまでの日野市の取り組みの成果を総括するとともに、「みどりと清流のまち ひの」を持続可能なまちづくりの根幹とし、日野市の目指すべき姿とそれを実現するための様々な生きものの視点に立った具体的な取り組みを示しております。

この戦略を通じて、私たち一人ひとりができることを考え、そして行動することで、先人から引き継いだ大切な自然や日野に棲む多様な生きものを次の世代へしっかりと伝え、日野らしいまちづくりを目指し、運用していくものとしています。



#### (4) 日野用水開削 450 周年事業

日野用水は 1567(永禄 10)年に開削され、2017(平成 29)年に開削 450 年の節目を迎えました。

2016 年度に市長から委嘱を受けた日野用水土地改良区 2 名、市民 7 名、市職員による「日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会」により、6 月にまち歩きイベント、8 月のアユまつりでは P R テントブースの設置、11 月には集大成であるシンポジウムを日野煉瓦小ホールにて開催し、来場者は 200 名を超え日野の用水の大切さをあらためて認識しました。周年記念として、2018 年 3 月には栄町五丁目で、粗朶柵や木杭を用いて昔ながらの水路を復元しました。

今後も日野市清流保全条例に基づいた年間通水を行い、「水の郷 日野」を守り続けます。

① まち歩きイベントの実施

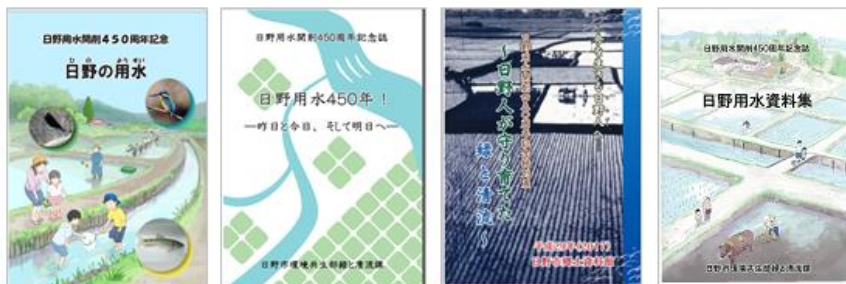
☆2017 年 6 月 17 日…探ろう！歩こう！日野用水 2

② シンポジウム開催

☆2017 年 10 月 15 日…日野用水開削 450 年 ～昨日と今日・そして明日へ～



③ 記念冊子の作成



冊子 1

冊子 2

冊子 3

冊子 4